

河川沿いでごみ拾い



山形

産業廃棄物中間処理業のクリーンシステム（鈴木隆社長）の従業員と、クリーンシステム協力会（佐藤啓会長）の会員が6月29日、同社近くの河川などで合同清掃を行った。写真。

県などが支援する河川愛護活動団体、マイロードサポート団体の活動を兼ね、計156人が

参加。須川や上の沢川などで約1時間、落ちているごみを拾うなどした。またCSR（企業の社会的責任）活動として、参加者からエコキャップ171キロ、プルタブ20・7キロも収集。今後、これを売却して車いすを購入し、市内の福祉施設に寄付する。合同清掃は2009年にスタートし、11回目となる。

クリーンシステム

過去最高の
156人で清掃

河川愛護・マイロード事業

クリーンシステム(山形市 鈴木隆代表取締役)と協力企業で構成するクリーンシステム協力会(佐藤啓会長)は合同で6月29日、ふるさとの川愛護活動支援事業およびマイロードサポーター事業として本社周辺を流れる須川や国道などで清掃活動を行った。

当日は、社員97人と協力会59人(35社)が集まり、過去最高人数を記録した昨年を超える総勢156人が参加した。作業に先立ち、鈴木代表は「今回で11回目となったこの活動も年々参加者が増えており、皆さん

の社会貢献への意識が高まっていると感じる。事故には十分に気を付けて作業に当たってほしい」と呼び掛けた。

参加者は17班に分かれ、河川愛護活動として本社近くの須川と上の沢川の総延長610メートル、マイロードサポーター事業として国道458号線と県道271号線の総延長2・35キロメートルを対象にごみ拾いを実施したほか、これらの活動に併せて農道や西部工業団地周辺などにおいてボランティアによるごみ拾いも行った。

また、この日はCSR活動の一環として参加者からエコキャップとプルタブも回収し、エコキャップ171・0キロ、プルタブ20・7キロが集められた。同社ではこれらを売却して車椅子を購入し、必要としている施設への寄贈を予定している。



2019年7月3日 建設新聞 掲載記事

クリーンシステムがボランティア

協力会合同で清掃活動



木社長は、今回で11回目の活動となる事にふれながら「活動中はゴミを見つげながら、危険箇所などが無いか周りも十分に確認しながら作業を進めてほしい」とあいさつした。

作業は、須川

(株)クリーンシステム(本社・山形市・鈴木隆社長)と同社協力会が毎年の恒例行事として実施している合同河川清掃を6月29日、本社周辺の須川上の沢川で実施した。||

写真||

同社従業員、協会などから約160名が参加し、清掃活動を進めた。

活動を前に本社前で鈴

上の沢川の河川愛護活動範囲のほか、国道458号線の山形市立第8中から県道271号線交差点付近、県道271号線の国道458号線交差点から飯塚橋東端までの区間のほか、飯塚団地や国道458号線から須川までの区域の農道、西部工業団地周辺など計7ヶ所で清掃活動を行った。また、当日はCSR

活動の一環として実施している「エコキャップ」プログラムの回収も実施。回収された売却費で今年も車椅子を購入し、施設へ寄付することになっている。